

一般財団法人  
山鹿市地域振興公社

## 経営状況説明書

令和5年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

令和5年4月1日から令和6年3月31日

## 1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の令和5年度事業実施に当たっては、山鹿市の「公の施設」5施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化・観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。さらに、年間を通じて、山鹿市や山鹿市教育委員会及び関係団体や地域おこし協力隊と連携し、公益目的事業や自主事業等を展開するとともに、安心安全かつ清潔な施設環境の提供に努めながら、施設の利用者増と満足度向上に努めた。

受託施設においては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、自粛されていた様々な催事や大会が再開されるなど活発な利用が見られた一方で、特に観光施設においては、インバウンドも含めた個人観光客の動きが活発化したものの、依然としてコロナ禍前の水準には至らなかった。

また当公社の組織強化を図るため組織体制を改編し、さらに、次年度に向けた働き方改革に基づく職場環境の整備を進めるとともに、公社の将来に向けた新たな取り組みとして若手職員による企画事業を地域おこし協力隊と連携して実施した。

## 2 事業の内容

### (1) 自主事業・公益目的事業

#### ア 文化振興・福祉向上事業

(ア) 観光都市やまがをPRする人材育成を図るため「山鹿市旅先案内人養成講座」を実施し、市民によるボランティア活動を支援しながら、山鹿を訪れる観光客の受け入れ態勢の充実を図った。

(イ) 山鹿市旅先案内人の会により土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内でのボランティア案内を、年間を通して実施することで、山鹿市の魅力ある伝統文化や歴史のPRを行った。また、山鹿灯籠民芸館と連携し、灯籠紙の原料となる楮や和紙について学ぶための研修会等にも積極的に参加し、識見を深めた。

(ウ) 八千代座で、狂言・子ども歌舞伎教室を開催する「八千代座文化講座事業」を、本年度も公社事業として継続的に実施し、本市の文化振興と地域に根ざした舞台芸術の育成を図った。発表会は、狂言が3月17日(日)に実施。令和5年12月から指導にあたってきた鹿北小学校5年生が子ども歌舞伎を3月13日(水)に実施した。

(エ) 八千代座のかつて映画館でもあったその歴史的役割を活かして、地域で失われた映画鑑賞の機会の提供を目的とする優秀映画鑑賞事業を平成20年(2008年)から継続実施。本年度は1月27日(土)に開催した。

(オ) 八千代座を活用し、教育活動の一環として開く演劇発表会への支援、映画や舞台芸能などを地域の方々と協働で実施することで、山鹿の地域文化

の振興と文化を学び触れることで子ども達の育成を図りながら23年目を迎える山鹿小学校演劇発表会を、「八千代座次世代子ども文化育成事業」として支援した。

- (カ) 八千代座に観光DX（デジタルトランスフォーメーション）を導入することで見学サービスに新たな付加価値を与えると同時に、インバウンドを含んだ観光需要の回復に対応することを目的に、QRコード及びMRの活用、キャッシュレス決済の導入を図る「八千代座観光DX事業」の実施に向けた基礎資料収集を行った。
- (キ) 市民が企画・希望する有料公演等（収益公演を除く）の開催をサポートすることで、公演による文化振興とその後の市民による自主公演開催の増加を図る「八千代座公演プロデュース事業」を、9月23日に風雅草紙コンサート、11月18日に社会人落語投票会公演、12月23日にふるさと自慢子ども祭り公演を行った。
- (ク) 灯籠踊りに代表される地域の伝統芸能や弁当などの食文化、八千代座の館内案内や廻り舞台などを活用しながら山鹿観光の商品開発につなぐ「観光商品プロデュース事業」として、8月15・16日に、灯籠祭り八千代座納涼公演を行った。
- (ケ) 八千代座を使用して市民が行う有料の式典類や公演等での技術的支援を行うことにより、市民が活用する際の質の向上と活用機会の増加を目的に、八千代座の説明案内や舞台運営の知見と技術を持つ職員を有料で派遣する事業を、灯籠祭り八千代座納涼公演で試験的な実施検証として行った。
- (コ) 八千代座が、文化庁のアートキャラバン事業に参加することで、チリ・スペイン人によるオブジェクトシアター「パレイドリア」、宇土、益城の文化会館と共催した「スーパーオンリー」、熊本県子ども劇場他と協力して「ピアニカの魔術師」の3公演を実施。文化庁から6,289,920円の助成を受けることができた。
- (サ) さくら湯の年中行事として定着した「菖蒲湯」「敬老湯」「ゆず湯」を実施したほか、「父の日」「母の日」の企画湯では次回無料入浴券の配布、「七夕湯」ではペア入浴者を対象に割引を行なった。また、柿文化の再生を支援する「渋柿湯」を行ったほか、春の山鹿温泉祭、秋のさくら湯感謝祭時に、さくら湯の歴史や入浴マナーを学ぶ「子ども入浴教室」を実施するとともに参加者へ無料入浴券を配布した。
- (シ) さくら湯において、市内小・中学校の長期休暇に合わせ実施している子ども入浴無料の「早起き朝湯」事業で、スタンプカードを発行し、入浴回数に応じた賞品贈呈を行うことで、子どもの入浴者数の増加を図った。
- (ス) さくら湯の山鹿温泉元湯としての歴史を背景にした「温泉情緒」醸成のための取り組みとして、時季に応じた風鈴や簾、七夕飾り、干し柿棚、門松などの設置を行い、利用者や観光客に季節感を感じてもらうための環境づくりを行った。  
また、温泉水を活用した商品開発として取り組んでいる冬場の「温泉柿」の試作製造を引き続き行った。

- (セ) さくら湯において、山鹿市の着地型観光商品・山鹿あそびの「灯籠温泉卓球」を継続して実施した。  
また、池の間を活用し、音楽愛好家によるコンサートや、市内のまちづくり団体とともに「やまが温泉落語」等を定期的に開催した。さらに、地域おこし協力隊と連携し、温泉資料室のリニューアルを行うとともに、休憩研修室の新たな活用としてレンタルスペース事業を開始するなど、附属施設を活用した賑わいづくりを図った。
- (ソ) さくら湯において、八千代座、山鹿灯籠民芸館、山鹿市立博物館、清浦記念館の入館券提示による割引を継続して実施するとともに、カルチャースポーツセンターや山鹿温泉観光協会と連携し、市内で開催されるスポーツ大会等の誘致や開催支援などスポーツコンベンション事業の積極的な推進を図った。
- (タ) さくら湯において、湯のまち山鹿の未来を担う子どもたちに、温泉や公衆浴場の素晴らしさを知ってもらい温泉に親しんでもらえるよう、山鹿温泉復活感謝祭が開かれる12月20日にちなみ、毎月20日を「子ども入浴無料デー」とする事業を行った。
- (チ) カルチャースポーツセンターでは、新型コロナウイルス感染症が5月より5類に移行したことで、従来通りの施設利用および大会運営が可能になった。フィットネスプログラムやトレーニングジムの運営では、アルコール消毒を継続して行い、利用者の安心と安全をサポートした。
- (ツ) カルチャースポーツセンターで開かれている、九州アジア独立プロ野球公式戦およびオムロンピンディーズの日本ハンドボールリーグの集客数は、前年度より微増となった。  
また、新たに、韓国高校生の長期合宿の利用があり、オフシーズンの施設利用課題の解消に繋がった。開催情報の発信等では、施設HPや生涯学習・スポーツ課と連携しながら「やまがメイト」での情報提供を積極的に行った。
- (テ) カルチャースポーツセンター利用者の利便性向上を図るため、飲食業者やキッチンカー業者に出店依頼を行い、延べ16回32店舗の実績となった。出店目的である施設利用者の昼食等への対応については、改善に向けての進展が見られた。
- (ト) カルチャースポーツセンターにおいて、「CSCカップ少年野球大会、小学生ハンドボール大会、中学生ソフトテニス大会」を開催した。開催目的である選手のレベルアップへの取り組み、開催時期・内容には指導者からも好評を得ており、今後の継続開催および規模拡大へに向けた意見交換も同時に行った。
- (ナ) 山鹿灯籠民芸館において、歴代灯籠師の名作を展示する常設展や、灯籠師と連携した特別企画展を開催した。  
また、山鹿灯籠踊り保存会と連携することで、大型連休やイベント時に、入館者へ踊りなどを披露する「おもてなし事業」を実施した。
- (二) 山鹿灯籠民芸館の催事情報をホームページやSNS等を活用して発信した。

- (ヌ) 山鹿灯籠民芸館で制作実演を行う灯籠師と連携することで、山鹿灯籠の優れた技術を身近に感じることができる制作キットを使った「制作体験ワークショップ」を別館で通年開催した。また、金灯籠の販売や来民うちわの販売も行った。
- (ネ) 山鹿灯籠民芸館において、国の伝統的工芸品「山鹿灯籠」への理解を深め、その魅力を様々な角度から知っていただくためのワークショップとして、踊り体験、灯籠紙裏打ち体験、楮農家見学会、灯籠の道マップを使用した散策体験などを行った。
- (ノ) 山鹿灯籠民芸館入館者の満足度向上を図るため、山鹿市と一緒に取り組む「山鹿あそび」のフォトスポットに加え、成人式・結婚式・七五三等の記念写真撮影等の場を新たに提供した。
- (ハ) 山鹿灯籠民芸館展示作品の充実を目的に、大宮神社の奉納灯籠払下げ作品の買取り事業を公社独自で実施するとともに灯籠師や大宮神社と連携し、山鹿灯籠の魅力を伝える情報発信を年間を通じて図った。
- (ヒ) 地域おこし協力隊と連携し、入館者の満足度の向上を図るための専用台紙を制作販売し、重ね押しスタンプラリーを行いながら館内を見学してもらいスタンプハガキ事業を行った。スタンプハガキには特典が付いており、ハガキを受け取った相手はその特典を利用できる仕組みにすることで、来館者の連鎖による新規入館者の獲得を図った。
- (フ) 市民交流センターのホワイエを活用し、(故)中島清灯籠師による「浅間神社」の展示や山鹿の風情を表現する写真展、博物館講座作品展、熊本県や山鹿市関連のコンクール等での入選作品展や市文化協会作品・花展などを四季折々に開くことで、施設に彩りを添えるとともに市民の交流を促進した。  
さらに、施設の備品を活用し、文化ホールでの演奏会の雰囲気を経験する「コンサートピアノを弾いてみませんか」を年5回実施し、施設の特性を活かしながら魅力発信事業につないだ。
- (ヘ) 市民交流センター内のこもれび図書館と連携し「ぬいぐるみおとまりかい」「こもれび夜のおなはし会」を、読み聞かせグループ夢ひこうせん・ボランティアマザーグース等の協力により実施した。
- (ホ) 市民交流センター文化ホールの新たな活用策として、市内の小中学校等部活動の練習場所としての提供を行うことで、子ども達のコンクールや大会への出場支援を行うとともに芸術・文化の育成を図った。
- (マ) 市民交流センターの文化ホールを活用し、様々なジャンルの音楽を優れた音響設備を利用して聴いていただく「CD鑑賞会」を開催し、施設の魅力を発信した。
- (ミ) 市民交流センターの文化ホール活用事業「山鹿市民交流センター開館10周年記念事業」は、出演者の都合により中止となった。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 山鹿市名刺録の代替措置としてデジタル名刺録の運用を行った。
- (イ) 公社ホームページ「山鹿ガイド」を活用した各施設の情報発信を行った。
- (ウ) 若手職員が地域おこし協力隊と連携し、若手チャレンジ事業「百華百彩を盛り上げよう！！」を山鹿灯籠浪漫・百華百彩にあわせて開催。竹灯りオブジェと空き缶を利用した手持ち灯りのワークショップを行った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙やオリジナルグッズの制作・販売を行った。
- (イ) 国の伝統的工芸品「山鹿灯籠」の魅力や、灯籠師の優れた技術を知っていただくため、山鹿灯籠をモチーフとした手持ち灯り等の販売を行った。
- (ウ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市さくら湯
- ウ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- エ 山鹿灯籠民芸館
- オ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市立博物館の受付業務
- ウ 山鹿市情報発信拠点創り事業
- エ 山鹿市4町グラウンド整備業務
- オ さくら湯温泉資料室コーディネート業務
- カ 民俗芸能発表会運營業務

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息600円、文化振興福祉向上事業費収入(公益目的事業収入)252,500円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入420,830円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金241,482,282円、雑収入10,078,889円、当期収入合計252,235,101円、前年度繰越金74,919,348円(基本財産3,000万円含む)を加えた公社事業費総収入額は、327,154,449円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業(文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業)経費1,567,341円(公益目的事業含む)、「公の施設」管理運営等に伴う経費212,349,566円(公益目的事業含む)、管理費(公社事務局運営費)7,422,323円、特定預金支出19,902,000円、租税公課10,904,200円、公社事業費支出費総額は252,145,430円(内公益目的事業費1,365,836円)であった。

5 その他の事項

令和5年度当期収支差額は、89,671円、令和6年度(2024年度)への繰越金は、75,009,019円(基本財産3,000万円含む)である。